

今週（8月8日から8月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高が290兆円台後半で推移する中、落ち着いた展開が続いた。無担保コールO/Nは、一部で調達ニーズの強い先も見られたものの、先週と比べると、全体的に若干軟調であった。12日は、15日の積み最終日が意識され、最終調整に動いた先も見られたことで、調達ニーズはやや強めであった。出合いのレンジは概ね▲0.065～▲0.015%と、先週と比べて拡大した。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.04%台後半での推移となり、先週と比べて低下したが12日は若干上昇した。ターム物は、証券業態からショートタームでの調達が散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、10日に2W・8,000億円がオフアーされ、落札額は1,941億円(期落ち額5,100億円)の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは▲0.09～▲0.07%近辺での取引が中心となり、週を通して投資家からのまとまった資金調達が目立った。8日のS/N(8/10-12)は、▲0.085～▲0.07%近辺の出合い。9日のS/N(8/12-15)は積み最終日が近づき、投資家の資金調達ニーズが若干減少したため▲0.09～▲0.075%近辺の出合いに低下した。10日のS/N(8/15-16)は、短国3M物発行要因で売り物が多く、▲0.08～▲0.07%近辺の出合いに上昇した。12日のS/N(8/16-17)は、日銀の国債・短国買入オペが通知された影響で▲0.095～▲0.085%近辺の出合いに低下した。

SCは個別銘柄では5y 125～128、10y 336～343、20y157、30y 48～51、40y8～9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週と同様に様子見姿勢の強いマーケットとなった。7月末の決定会合の結果を受けて債券相場が全般的に軟調となる中、一定の調整が見られたものの、短国買入オペ等もあり、需給面では崩れにくい状況であった。

8日には6M物、10日には3M物の入札が実施された。6M物は平均落札利回▲0.2397%、按分落札利回▲0.2021%、3M物は平均落札利回▲0.2224%、按分落札利回▲0.1844%と、いずれも慎重な応札姿勢を反映し、流れる結果となった。12日には短国買入オペが30,000億円で実施され、平均利回較差+0.007%、按分利回較差±0%と、オフアー額が大幅に膨らんだにしては、落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、事業法人が夏季休暇を控えていることもあり、入札案件が少なく、10日・15日に係る発行も膨らまなかったため、週を通して静かな取引となった。入札ベースの週間償還総額は5,500億円程度だったのに対し、一部の業態（電機・鉄鋼・商社等）から大型の発行案件が見られたものの、週間発行総額は3,500億円程度にとどまった。マーケット全体の発行総額は15兆円台前半と、前年比約15,000億円減少の水準で推移した。発行レートは、引き続き0%近辺での発行が散見されたが、発行残高が積み上がった銘柄や、月内償還物では小幅ながら上昇するものも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/8（月）	16,650.57	△ 0.055	102.10	△ 0.045	△ 0.080	2,952,400
8/9（火）	16,764.97	△ 0.085	102.35	△ 0.048	△ 0.080	2,983,700
8/10（水）	16,735.12	△ 0.110	101.50	△ 0.047	△ 0.086	2,966,700
8/11（木）						
8/12（金）	16,919.92	△ 0.110	102.04	△ 0.041	△ 0.075	2,958,500

来週（8月15日から8月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/15 (月)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 6月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)				
8/16 (火)		流動性供給 4,000億円 8/18発行			7月の米消費者物価指数 7月の米住宅着工件数 7月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月の英消費者物価指数
8/17 (水)		TB1Y 25,000億円 8/22発行	国有林野借入 981億円 8/25借入		
8/18 (木)	7月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 44,000億円 8/22発行	5Y 24,000億円 8/22発行		7月のユーロ圏消費者物価指数改定値
8/19 (金)					

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/15 (月)	800	30,100	30,900	全店共通 国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 5,100 ▲ 800 ▲ 100	1,900 11,800 200 200	8,100	39,000	源泉所得税揚げ 年金定時払い 社会保障費 TB2M発行中止 TB3M発行▲44000償還31500 2Y発行▲23000償還6100 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3200 個人向け3Y償還800
8/16 (火)	1,000	▲ 1,000	0	国債買入 短国買入		5,300 30,000	35,300	35,300	
8/17 (水)	0	3,000	3,000				0	3,000	
8/18 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	流動性供給▲4000
8/19 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000	CP買入		3,500	3,500	4,500	エネルギー対策借入▲6000期日5000
週間合計	▲ 200	31,100	30,900	—	▲ 6,000	52,900	46,900	77,800	

8/15は日銀予想、8/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの最終日を迎え、無担保コールO/N加重平均レートは低下することが予想される。15日に年金定時払いが行われることや、新しい積み期間に入ることにより取り手が様子見姿勢となることが想定されるため、レートは低下基調が続くと考えられる。

短国市場は17日に1Y物、18日に3M物の入札が実施される。12日の短国買入オペのオファー額が多めであったことで、応札姿勢に変化が見られるか注目される。

CP市場は、17日・18日の入札を中心に発行の増加が見込まれる。16日にはCP等買入オペが実施される予定となっている。オファー額が前回と変更がないことや、マーケット水準も横ばい圏で推移していることから、落札金利は概ね横ばいでの決着が予想される。

主要なイベントとしては15日の4-6月期GDP1次速報などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入